

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	栃木県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

真岡市立真岡中学校							
	1年	2年	3年	特殊学級	計	職員数	
学級数	5	5	5	2	17	38	
生徒数	174	188	192	5	559		

実践研究の内容

1. 主題

<p>確かな学力の定着を図る個に応じた学習指導の改善 - 個人差と各教科の特性を生かして -</p>
--

2. 内容与方法

(1) 実施学年・教科

- ・学力はどの教科にもあり、全教科で研究に取り組むことが、学力向上につながると考え研究教科を必修9教科に拡大した。
- ・昨年度の実績を生かして、3学年数学で2C3T体制の習熟度別学習を継続して実施。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 確かな学力の定着を図る個に応じた学習指導の改善</p> <p>仮説 生徒の学力や特性を把握して個の実態に応じた指導方法や指導体制の工夫改善を図れば、生徒一人一人の学習意欲が向上し、確かな学力が定着するであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>個に応じた指導体制の工夫改善</p> <p>3年数学で習熟度別少人数指導を、1年英語でT・Tやコース別指導を行い、基礎・基本の指導方法や学習集団の編制について研究し、仮説を検証する。</p> <p>選択数学、選択英語に補充・発展コースを開設して、習熟度に応じた教材開発をする。</p> <p>生徒の興味・関心に対応するために、多様な選択教科を開設して、個に応じた教材開発や、地域の人材を生かした指導方法の工夫改善をする。</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 個人差と各教科の特性を生かして</p> <p>仮説 各教科の基礎・基本を明らかにし、その定着に向け、生徒の個人差を配慮したり生かしたりする授業を実践すれば、確かな学力の定着を図ることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>個人差の要素となる学習到達度、学習速度、学習スタイル、興味・関心・生活経験とその教科の特性との関連を分析する。</p>
--------	--

各教科の学習に関する生徒の実態把握を行い、その結果を分析、考察して、 の教科の特性を踏まえて、その教科を指導する上でどのような課題があるかを明確にする。そこから、指導の手だてを講じ、授業を通して実践し、生徒の変容を調べる。上記の の変容を把握する評価の手段としてどのような方法が適切かを研究する。以上 、 、 をまとめると次のようになる。

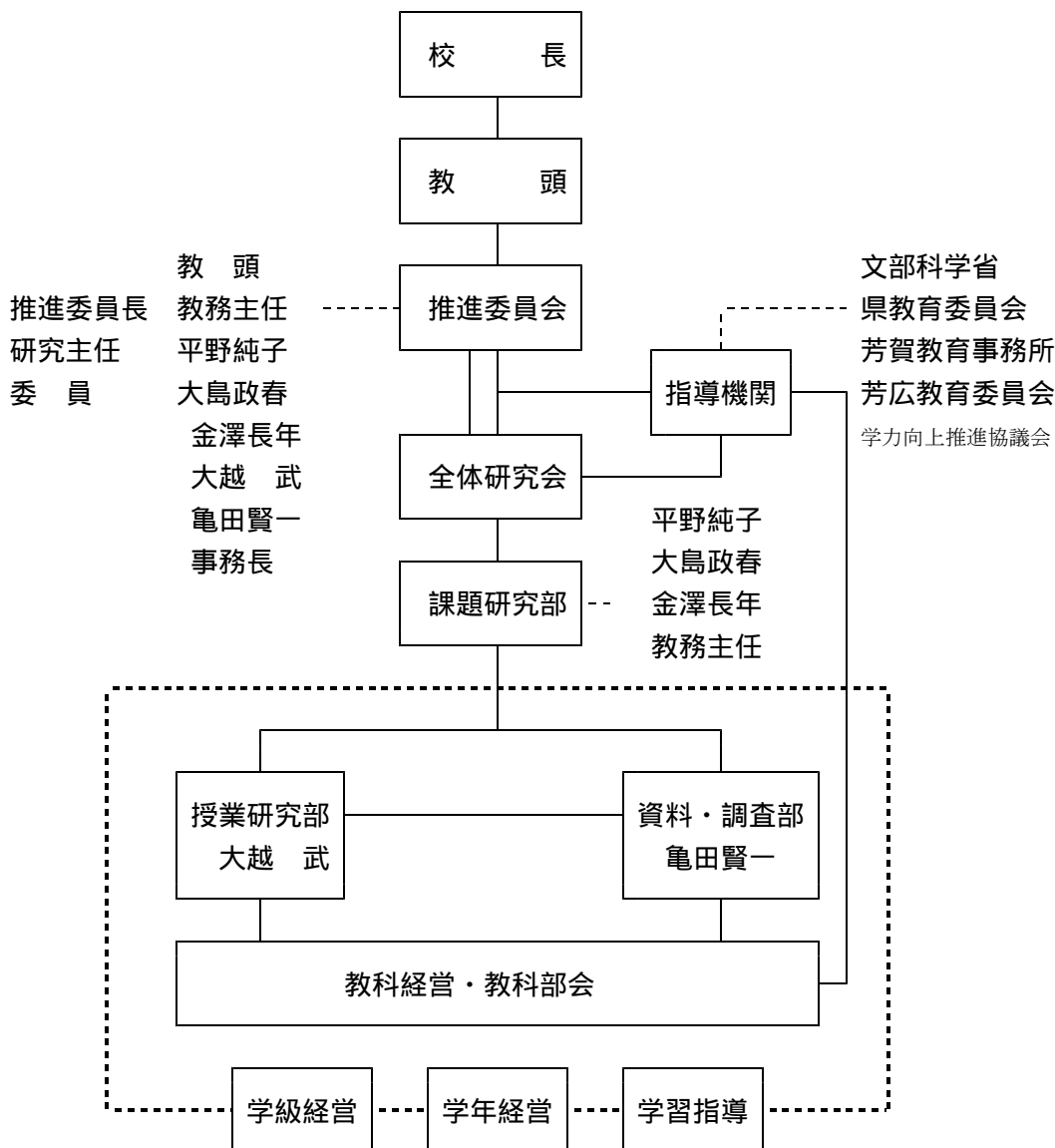
研究内容	手だて
<b>個に応じた指導のための教材開発</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲を高める教材・資料の開発</li> <li>・レディネステストによる個の実態把握の工夫</li> <li>・難易度を考慮した教材の開発</li> <li>・補充的・発展的学習に役立つ教材の開発</li> <li>・自作教材・教具の活用</li> </ul>
<b>個に応じた指導体制の工夫</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム・ティーチングの工夫</li> <li>・理解や習熟の程度に応じた少人数指導</li> <li>・学習集団編成の工夫</li> <li>・外部人材の活用</li> </ul>
<b>基礎・基本の定着を図る指導法の工夫</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導計画の中での位置づけ</li> <li>・授業中でのフィードバックの工夫</li> <li>・個々の生徒を見取る方法や手順、支援の工夫</li> <li>・学び方の指導</li> <li>・学習計画や学習のねらい・学習目標の提示</li> <li>・学習方法の指導</li> <li>・学習のサイクル化を図る工夫</li> <li>・学習形態の工夫</li> <li>・学び合いを意図した指導</li> </ul>
<b>評価を生かした指導の工夫</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の結果に基づいた個の支援の工夫</li> <li>・評価を生かした指導過程の工夫</li> <li>・生徒の自己評価の工夫と活用</li> </ul>

平成16年度

テーマ 平成15年度の継続。  
 仮説 平成15年度に同じ。  
 研究内容・方法  
 平成15年度の指導の手だての実践を通して仮説を検証する。  
 研究の成果を授業の公開を通して明らかにする。

(3) 研究体制

組織図



	研究部員 ( 部長 )
課題研究部	平野 大島 金澤 古壕
授業研究部	大越武 斉藤 日下田 高野 石川 大越秀 都地 吉村 古口 金敷 高橋 邑楽 長島 大根田佳 小森 刑部
資料・調査部	亀田 秋葉 松井 関 大塚 篠崎 沼尾 大根田安 芝野 松本

役割分担

ア 推進委員会

- ・ 研究を推進するにあたっての基本方針など、研究全体の骨子に関わる内容等の検討をする。
- ・ 各部からの計画・原案などを調整・審議する。
- ・ 全体研究会や各部会の研究の方向付けをする。
- ・ 審議事項は、校長・教頭、運営委員会に提示し、さらに方向付けを明確にする。

#### イ 全体研究会

- ・推進委員会や各研究部会で審議した内容を協議し、共通理解を図る。
- ・指導機関からの指導を受ける。

#### ウ 課題研究部

- ・研究の方向性や理論付けについて検討する。
- ・研究の企画等を行う。

#### エ 授業研究部

- ・個人差のとらえ方についての研究を深め、各教科の特性との関連を明らかにする。
- ・各教科の基礎・基本について明らかにし、その定着のためのよりよい授業の展開について研究する。
- ・授業の指導法についての研究を深める。
- ・評価についての研究を深める。

#### オ 資料・調査部

- ・先行実践についての調査を行い、追試可能なものについて明らかにする。
- ・生徒の学力の実態について調査し、分析する。
- ・授業研究をはじめ、研究会等の記録を行い、保存する。

#### [改善点]

- ・課題研究部を他の2部会の並列ではなく、上位に位置づけた。
- ・学級経営、学年経営、学習指導との関連を持たせ、特に学習訓練的な指導の共通実践を図った。

### 平成15年度の研究成果及び今後の課題

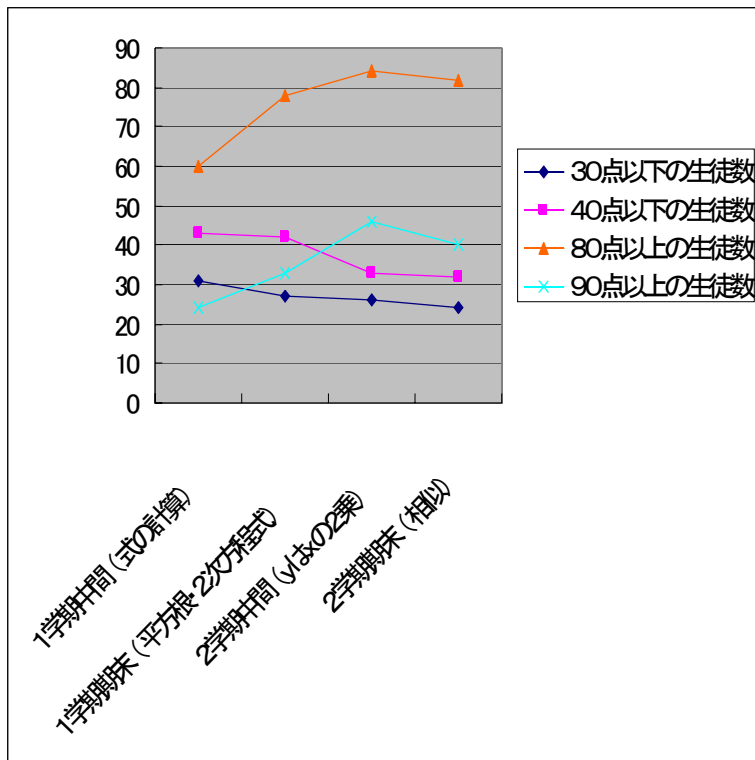
#### 1. 研究成果

##### 3年数学科での変容

指導体制の工夫として、2C3Tの習熟度別指導を昨年度から実施している。コース分けは、基礎コース2クラス、発展コース1クラスである。今年度1年間の定期テストでは次のように得点分布が推移している。(以下別紙)

1学期中間 (式の計算)      1学期期末 (平方根・2次方程式)  
 2学期中間 (yはxの2乗)      2学期期末 (相似)

30点以下の生徒数	31	27	26	24
40点以下の生徒数	43	42	33	32
80点以上の生徒数	60	78	84	82
90点以上の生徒数	24	33	46	40



3年生の数学は、既習の内容を包括しながら徐々に難易度が高くなっていく学習内容である。即ち、単元が段階的に密接して関連している。

グラフを観ると、学習難易度が高くなっていく中で、低得点層は減少し、高得点層は増加していることがわかる。補充クラスでは、基礎・基本の徹底した習熟をすることで、学んだ力が身に付くとともに、学ぶ力や学ぼうとする力の育成にもつながったといえる。また発展クラスでは、数学の見方や考え方を重視した授業を展開することで、数学の楽しさを実感するとともに難易度の高い問題を解答する力が身に付いている。このことが高得点層の増加に結びついている。

以上の点において、習熟度別クラスによる授業は効果的であると考えられる。

### 家庭学習時間の増加

対象	応答	増加した	変わらない	減少した
1年抽出3学級	101名	52 (51,5%)	17 (16,8%)	32 (31,7%)
2年抽出3学級	103名	54 (52,4%)	13 (12,6%)	25 (35,0%)

1、2学年対象に家庭学習時間の調査を実施。前年10月と今年1月を比較すると左の通りで、両学年とも学習時間が増加した割合が半数を超えている。理由として、基礎・基本の定着のために家庭学

習の方法を指導したり、課題を計画的に与えてきたことが生徒の学習意欲の向上につながり、その結果学習時間が増加したと思われる。

全校体制での研究への取り組み

ア 本校は学力を次のように3つの力ととらえた。

「学んだ力」(知識・理解・技能・思考)

「学ぶ力」 (学び方・判断力・表現力・問題解決能力)

「学ぼうとする力」(関心・意欲・態度)

そして、確かな学力はこれら3つの力が有機的に機能した状態をいい、実態調査の結果、各教科の学習方法の指導や、意欲付けを図ることが学んだ力に密接に関連していることを共通理解すること

ができた。

- イ 9教科にまたがる研究のため、共通理解から共通実践に移るまでに時間がかかったが、手だてが明確になってからは、各教科で授業参観を行い、手だての実践が円滑に進められるようになった。それに伴い、従来慣例的に行ってきた指導を見直したり、意図的に実践するようになった。特に、学習訓練的な指導の必要性が共通理解された。
- ウ 個に応じた指導のための教材開発は、単独で指導する教科において特に進められ、ワークシート類は基礎的な内容に発展的な内容を加えて作成することが意図的に実践されている。また、興味・関心の差に配慮して、生徒の意欲を高める教材の工夫、改善が進められている。
- エ T Tの工夫では、1年数学科のT 2として、一部の学級に教科外の指導者を充てているが、T 2の役割として「Bに近いCの生徒」への支援を重点的に行うことが効果的であることが分かった。
- オ 基礎・基本の定着を図る指導では、特に学び方や学習方法の指導が意図的に実践され、学習の手引きの改善が進められている。また、学習のサイクル化を図る指導の手だてが教科間で工夫されてきている。

## 2. 今後の課題

### 個々の変容の見取りの重視

- ・毎時間の授業計画に、支援を要する生徒への手だてが意識されてきたため、基礎・基本の定着は図られてきているが、評価の対象が学習集団になりがちであり、個々の生徒の変容を見取る段階にはまだ至っていない。このことへの方策が今後の課題である。

### 評価規準の精度の向上

- ・本研究で目指す基礎・基本の定着は、少なくとも「おおむね満足できる状況」に生徒を支援することであり、「十分に満足できる状況」の生徒は、さらに伸ばす指導をすることであるが、その基盤となる評価規準の精度を向上させることが必要である。

### 外部人材活用の工夫

- ・外部人材活用は、学校行事や総合的な学習の時間の他には、音楽科、保健体育科、技術科でその専門性を生かした授業が実施されたが、十分に活用されているとは言えない現状である。校内には外部人材活用の手順は確立しているが、人材が集まらないのが課題であり、地域のネットワークとの連携を推進しなければならない。

### 学力把握のための学校としての取組

- ・定期的な基礎学力テストの実施（年1回3学期に実施）  
国語・数学・英語の3教科について校内統一テストを行い、学力の変容を数値的に把握する。
- ・市販の学力検査C R T（年2回6月・2月）  
全学年5教科 同一学年の変容を把握する。
- ・生徒意識調査（年2回6月・2月）  
関心・意欲、学習習慣、学習訓練の定着の度合を把握する。

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・先進校視察での情報交換  
平成16年2月5日（金）  
場所 静岡県富士宮市立富士宮第四中学校
- ・研究概要の報告  
平成16年2月24日（火）  
場所 芳賀分庁舎

- ・HP（アドレス <http://www.moka-tcg.ed.jp/mokajhsc/>）にテーマ、成果と課題を公開中。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- |                        |   |  |  |   |
|------------------------|---|--|--|---|
| [ 新規校・継続校 ]            | 1 5 年度からの新規校  | <input checked="" type="checkbox"/> 1 4 年度からの継続校 |  |   |
| [ 学校規模 ]               | 3 学級以下  | 4 ~ 6 学級   |  |   |
|                        | 7 ~ 9 学級  | 1 0 ~ 1 2 学級                                     |  |   |
|                        | <input checked="" type="checkbox"/> 1 3 学級 ~ 1 5 学級 | 1 6 学級以上   |  |   |
| [ 指導体制 ]               | <input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導           | <input checked="" type="checkbox"/> T・Tによる指導     |  |   |
|                        | <input checked="" type="checkbox"/> その他             |  |  |   |
| [ 研究教科 ]               | <input checked="" type="checkbox"/> 国語              | <input checked="" type="checkbox"/> 社会           | <input checked="" type="checkbox"/> 数学 | <input checked="" type="checkbox"/> 理科    |
|                        | <input checked="" type="checkbox"/> 外国語             | <input checked="" type="checkbox"/> 音楽           | <input checked="" type="checkbox"/> 美術 | <input checked="" type="checkbox"/> 技術・家庭 |
|                        | <input checked="" type="checkbox"/> 保健体育            | その他  |  |   |
| [ 指導方法の工夫改善に関わる加配の有無 ] |   | <input checked="" type="checkbox"/> 有            |  | 無   |